

『蟹と彼女と隣の日本人～2015』

作：斎藤歩

翻訳：木村典子

登場人物

パクソング

キムスジョン

よしこ

貴子

宅配便の配達人（近藤君）

三郎

前書き

舞台上、奥の壁面に字幕を投影するためのスクリーンがある。時として、必要に応じて、ハングル語、もしくは日本語の字幕が映し出されるが、常にあるわけではない。

Act. 1 <中華食堂の店内>

舞台に小型の煙突式の石油ストーブが赤々と燃えている。当然、中に赤い電球か何かを仕込んでいるわけで、実際に燃やしたりはしないほうがいいと思う。このストーブから天井に一本煙突が伸びている。北海道ならば昔はどこにでもあったタイプの灯油ストーブである。

舞台背後に中華食堂の入り口、テーブルと椅子がいくつか、粗末な中華食堂の店内である。

開演の10分ほど前から、男が一人舞台に出て来て、ストーブの傍にあるテーブルの一つを使ってタマネギのみじん切りを始める。男はタマネギのみじん切りが終わると、ニンニクも細かく切る。そして、電気コンロが仕込まれたストーブの上で暖めていた鍋でニンニクータマネギの順に木べらで炒めはじめる。弱火でじわじわ炒めるあれである。

5分ほど炒めた頃、つまりこの頃が開演2～3分前であろうから、受付の制作スタッフか劇団員の誰かが客席の前に出て「本日は札幌座公演『蟹と彼女と隣の日本人』にご来場下さり、誠にありがとうございます。開演前にいくつかお願いがございます」とか挨拶するのだろう

と思う。

挨拶が終わり、開演時間になると客席の明かりが消え、舞台に一人の女が出てくる。

舞台上の二人は、調理服のような格好をしている。とはいえ、正式な板前が着るようなあれでも、正式な洋食のコックが着るようなあれでもなく、食堂のアルバイト店員が着ているような、簡素化したあれである。それは多少薄汚れている。上着だけあれを着用し、その下はTシャツにジーンズだったりジャージだったり、あまりきちんとした厨房服ではない事がわかりたい。そんな格好にエプロンをしていたりする。

最初に登場した男が「パクソング」、後から登場した女「貴子」が鍋を覗き込んで

貴子 おお

ソング …

貴子 いいんじゃない？

ソング いいですか？

貴子 いいですよ

ソング （炒め続ける）

貴子 そうそう

ソング そうそう、そうですか？

貴子 そうそう

ソング そうですね

貴子 きつね色になるまでね

ソング きつね？

貴子 あ～、フォックス？

ソング ああ、きつね

貴子 飴色とか言うけど

ソング 飴？

貴子 あーめ

ソング 雨？

貴子 雨じゃなくて飴

ソング ア～メエ？

貴子 何て言えばいいかなあ。キャンディ？

ソング キャンディ？

貴子 そう、オニオンのカラーがキャンディ？

ソング そうですね

貴子 弱火でね、スモールファイアースロウリースロウリーで、(木べらを持つソングの手に自分の手を添えて)ハンドはノンストップ、手を休めたらダメよ。すぐ焦げちゃうから

ソング 양파가 갈색이 될 때까지 타지 않도록 볶는 거죠, 약한 불로.
(玉葱が茶色になるまで焦げないように炒めるんでしょ、弱火で)

貴子 …(至近距離でソングを見つめる)

ソング オッケー

貴子 本当？

ソング そうですね

貴子 (手を添えたままソングを見つめる) …

ソング (手を止めずに貴子を見る) …

貴子 (ソングを見つめる) …

ソング 貴子さん？

貴子 なあに？

ソング …山地さんは？

貴子 山地さん？

ソング そうそう

貴子 山地さんがなあに？

ソング 器

貴子 器？

ソング 出前の

貴子 出前の器？

ソング そうそう

貴子 ああ、山地さんのところ？

ソング 僕が今、行きますか？

貴子 出前の器を下げに？

ソング そうそう

貴子 あ〜と〜で

ソング 後？

貴子 そう、後でいいから、今はこれ、焦がしちゃダメ

ソング でも、よしこさんが…

貴子 いいの

ソング そうですか

貴子 手を止めちゃダメ

ソング …

貴子 …

ソング 貴子さん？

貴子 なぁに？

ソング 卵は？

貴子 たまご？

ソング 달걀.(たまご)

貴子 エッグ？

ソング そうそう

貴子 買いに行くわよ

ソング そうですね

貴子 2個しか残ってないからすぐ買って来なくちゃ

ソング ワオ！

貴子 ね？

ソング 大変ですね

貴子 そうよ

ソング オッケー

貴子 あたしは卵、ソングは？

ソング …何ですか？

貴子 タマネギ

ソング そうですか

貴子 しばしのお別れよ

ソング いってらっしゃい

貴子 タマネギ、焦がさないでね

ソング 大丈夫

貴子 あたしのハートも

ソング 何ですか？

貴子 これ以上焦がさないで

ソング ああ、大丈夫

貴子 わかってんの？

ソング 大丈夫

貴子 …（奥の扉から外に去る）

ソング …나중에 야마지씨네 그릇 받아오면 되는 거잖아요. 알았어요. 걱정할 것 없어요…（後で山地さんの出前の器を下げればいいんでしょ、わかってますよ、大丈夫）

貴子が去り、パクソングが一人タマネギを炒め続ける。

<音楽「蟹の無言歌-1」>

一人の男が奥の扉から登場する。この男、どう見ても宅配便の配達人であろうという格好をしている。手には大きめの発泡スチロールの箱と伝票を持っている。

配達人 毎度様で～す

ソング はい

配達人 紋別のアビコ様からのお荷物になります

ソング …（受け取る）

配達人 あ、こちらにサインをお願いします

ソング サイン？

配達人 （ペンを渡して）こちらをお願いします

ソング 내가 사인해도 돼요?（僕のサインでいいんですか？）

配達人 あ、えーっとここに、サインを…（何故か英語風に）サイ～ン

ソング (サインしてボールペンを渡す)

配達人 (サインを見る)

ソング 박성구. (パクソング)

配達人 …え？

ソング 내 이름, 박성구. 다 됐나요? (僕の名前、パクソング、これでいいんですか?)

配達人 ああ

ソング 한자로 쓸까요? (漢字で書いた方がいいですか?)

配達人 え？

ソング 한자. (漢字)

配達人 …ありがとうございます

ソング ごくどうさま

配達人 …毎度どうも～ (去る)

ソング …아아아! (ああっ!)

鍋が放ったらかしなのに気づいて慌てて荷物をどこかに置き、木べらでタマネギをかき回すが焦げてはいないようである

ソング 괜찮아, 괜찮아. (大丈夫、大丈夫)

しかし、荷物が気になるのか、発泡スチロールの蓋を留めているガムテープを剥がし、ふたをそっと開ける。客席から中身は見えない方が、何かと都合がいいと思う。

ソング 오오…게. (おお…蟹)

恐る恐る手で中身をつついてみる

ソング …살아있네. (生きてる)

< 転換 >

Act. 2 <中華食堂の店先>

照明が変化し、舞台は転換する。舞台背後にあった入り口の扉が移動して来て、ストーブのある店内を隠すように舞台前面に配置されると、そこは店の外、店先である。扉には「中華料理」の赤い暖簾がかかっている。そこへ女が2人登場する。「よしこ」と「キムスジョン」。よしこは食堂のオカミさんという格好。スジョンはこれから銭湯に行こうという格好。

よしこ ゴミはそこに出せばいいから

スジョン はい

よしこ 燃えるゴミとか、資源ゴミとか、それぞれ決まった曜日に朝8時半までに出してもらえばいいし、あれ？ゴミの分別のこと書いた紙渡したっけ？

スジョン いただきました

よしこ お風呂はそこを曲がったらすぐに大正湯があるし

スジョン あそこですか？

よしこ そう、そこ、コンビニのどこ左に曲がればすぐだから

スジョン はい

よしこ （手に持っていたアパートの入居契約書のようなものを見て）ねえねえ、これなんて読むの？これあんたの名前でしょ？

スジョン そうです

よしこ 水晶？すごいね、お金持ちになるよあんた。金と水晶？

スジョン スジョンです

よしこ スジョン？

スジョン キムスジョンです

よしこ あら、そう、キムさん？

スジョン はい

よしこ そうかい、スジョンちゃんかい

スジョン はい

よしこ 梁さんがとてもいい人だからって

スジョン ああ…

よしこ 世話になってんだ、梁さんには

スジョン そうですか

よしこ おばさんがこんなところでこうして食堂やったり、アパートや
ったりしてられんのも、みんな梁さんのおかげでね

スジョン そうですか

よしこ この食堂もね…梁さんが…(涙ぐむ)

スジョン …

よしこ …あ、ごめんね

スジョン ??

よしこ すぐ隣だしさ、いつでも食べにおいで

スジョン あ、はい

よしこ サービスするから

スジョン ありがとうございます

よしこ この店にもね、韓国の人、いるのよ。ソングって韓国人、ア
ルバイトでね

スジョン ソング?

よしこ パクソング

スジョン そうですか

よしこ 知ってる?

スジョン いえ

よしこ あいつも梁さんの紹介なんだけどさ、ちょっと残念な韓国人
なのよね

スジョン 残念ですか?

よしこ ちょっとバカなのよ

スジョン バカ?

よしこ 根性はあるけどね。どんなに怒られても次の日にはケロッ
としてんだから。最近の日本人なんか怒られたらすぐ辞めちゃう
からね、連絡もよこさないでさあ

スジョン はあ

よしこ そうそう、あんたの部屋の隣に変な日本人住んでるけど、あ
まり相手にしちゃダメよ

スジョン 隣?

よしこ 3号室、あんたの左っかわの部屋

スジョン はい

よしこ 何やってんだか知らないけど、ほんと、しょうがない男だね。
家賃だって随分たまってるとし。まあ、気の小さい男だから悪さするわけでもないし、放っておけば害はないんだけどね。時々話しかけて来たりするかも知れないけど、その時は日本語わからない振りしてればいいから

スジョン そうですか

よしこ あ、寒いのに立ち話させてご免ね、ほら、お風呂行っといで

スジョン はい

よしこ お風呂から帰ってきたらすぐ、ご飯食べに来なさいよ、今日は御馳走するから

スジョン ありがとうございます

よしこ はい

スジョン …おばさん

よしこ ん？

スジョン 色々ありがとう

よしこ いいえ

スジョン どうぞ、よろしく願います

よしこ そんなご丁寧に…(涙ぐむ)…こちらこそね

そこへ買い物帰りの貴子が戻って来る。手に卵を持っているのか。

貴子 ただいまあ～

よしこ あんた、どこ行ってたの

貴子 卵

よしこ 買って来たの？

貴子 だってもう2個しかなかったし

よしこ え～あだし箱で買っといたのに

貴子 え～見なかったよ

よしこ レジの下の所になかった？

貴子 (驚愕して)…レジの下？！

よしこ レジの下

貴子 レジの…下？…(スジョンを見て)あ？

よしこ ん？

貴子 どなた？

よしこ 今日隣に引越して来た人

貴子 お

スジョン キムスジョンです

よしこ 貴子ちゃん、ウチで働いてくれる娘

貴子 韓国の人？

スジョン はい、そうです

貴子 ………ふ～ん

よしこ 日本語上手でしょ

スジョン いいえ

貴子 (じっと見る)

スジョン …

よしこ ほら、早くお風呂行っといで、大正湯

スジョン はい

よしこ じゃ、また後でね

スジョン はい、じゃあ(貴子に深々とお辞儀して去る)

貴子 (お辞儀をしながらもスジョンを見る)

よしこ ああ、寒い、嘘お、何でレジの下見ないのよ？卵(扉を開けて店に入って行く)

貴子 (スジョンが去った方をしばらく見送って、顎に手を当てる)
…(やがて店に入って行く)

<転換>